

## 静脈カテーテル

### 再使用禁止

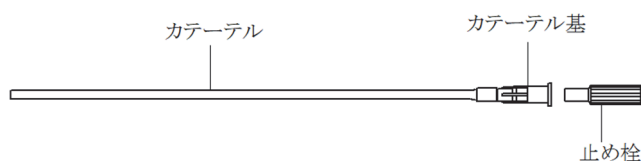
#### 【禁忌・禁止】

再使用禁止

#### 【形状・構造及び原理等】

- \* 本品は、静脈内に溶液を注入するために用いる。

#### <構造図(代表図)>



- 1) カテーテル: ポリエチレン
- 2) カテーテル基: ポリプロピレン及びステンレス鋼(ニッケル・クロム含有)

#### 【使用目的又は効果】

- \* (承認申請書に記載なし)

#### 【使用方法等】

- 1) 使用する静脈の部位を中心に消毒する。
- 2) 穴あき布で被覆し、局所麻酔を行なう。
- 3) 静脈に直角に皮下脂肪組織が十分に露出するところまで、横切開を加える。
- 4) 血管用小筋鉤等で切開創を広げながら、モスキート鉗子等を用いて脂肪組織を排除して静脈を剥離露出する。
- 5) 静脈の遠位端を結紮し、中枢側に糸を通して支持糸として静脈を吊り上げる。
- 6) 血管用メス等を使用して静脈の中央部よりやや末梢側を内腔が見えるまで切開する。
- 7) モスキート鉗子で血管切開口を把持して広げ、中枢側支持糸を操作しながら前もって生理食塩水を満たしておいたカテーテルを挿入する。
- 8) カテーテルを十分な深さまで挿入したら、中枢側支持糸にて血管と一緒にカテーテルを結紮してから、末梢側血管結紮糸をカテーテルに回して固定する。
- 9) 皮膚切開創の結節縫合を行なう。
- 10) テープ等で固定する。

#### <使用方法等に関連する使用上の注意>

- 1) 使用の際は、汚染に十分注意すること。
- 2) テーパ部に薬液等が付着した状態で、ロックシリンジの締め付け及び増し締めを行わないこと。  
[通常より深くテーパに入り込むことで、基の変形、破損を引き起こし、接合部からの薬液の漏れ、空気混入の原因となる。]
- 3) カテーテルと薬液ラインとの接続は確実に行ない、使用中は緩みがないことを定期的に確認すること。  
[薬液の漏れ、感染症を引き起こす恐れがある。]
- 4) カテーテルの折れ曲がり等に配慮して固定すること。固定後はカテーテル及び薬液ラインの状態に注意すること。  
[カテーテルの閉塞、カテーテルの破損、感染症を引き起こす恐れがある。]
- 5) 血栓や感染予防のための管理(補液、留置期間等)を十分に行なうこと。

#### 【使用上の注意】

##### <不具合・有害事象>

手技に伴い、一般的な不具合や有害事象が発生する恐れがある。有害事象が発生した場合は術者の知見に基づき、適切な処置を行うこと。

- 1) その他の不具合
  - ① 破損
  - ② 漏れ
  - ③ キンク
  - ④ 閉塞
- 2) 重大な有害事象
  - ① 感染
- 3) その他の有害事象
  - ① 血管損傷
  - ② 出血
  - ③ アレルギー反応
  - ④ 血栓形成
  - ⑤ 体内遺残
  - ⑥ 静脈炎

#### 【保管方法及び有効期間等】

##### <保管方法>

水ぬれ、直射日光、高温多湿を避け保管すること。

##### <有効期間>

箱に記載している使用期限を参照のこと。(自己認証による)

#### 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

##### <製造販売業者>

株式会社八光  
TEL 026-275-0121

##### <製造業者>

株式会社八光

##### 販売窓口:

東京都文京区本郷三丁目 42-6  
TEL 03-5804-8500